

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 21 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520248

研究課題名(和文)南米日系移民および韓国系移民による文学に関する総合的研究

研究課題名(英文) Synthetic research on the literature by South America Japanese immigration and Korean immigration

研究代表者

川村 正典(川村湊)(KAWAMURA, Masanori)

法政大学・国際文化学部・教授

研究者番号：70224855

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、南米日系・韓国系移民による日本語・韓国語を使用した文学作品の新たなる発見と読解分析を目的とする。南米各国に調査に赴いた際、日本語・韓国語文学作品資料を数多く収集することが出来た。また、多く現地移民の方々や日本国内外の研究者たちとも人的繋がりを形成することが出来た。われわれ研究チームの調査が南米各国の邦字新聞、韓国語新聞に掲載され、各移民コミュニティに広く知られることになり、資料収集や調査がスムーズに進行した。アルゼンチン国立ブエノスアイレス大学で開催されたワークショップ「異文化間コミュニケーション」に参加し、研究チーム各人が当研究の実績の一端として発表を行った。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to find the literary works written by Japanese migrants and Korean migrants in South America such as Brazil and Argentina. And we read them intensively. When we went to the South American countries for an investigation by this project, we collected a lot of Japanese literature and Korean literature documents. In addition, we got to know people of many local immigrants. And we got to know immigrant researchers in Japan. This project appeared in some Japanese newspapers and Korean newspaper of the countries which we visited. Therefore the investigation into this project was known to people of the emigrant community. As a result, document collection and an investigation went smoothly. We participated in workshop "Intercultural communication" held in Buenos Aires University. The member of this project announced it in the workshop.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：移民文学 外地日本語文学 韓国系移民文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 南米への本格的な日本人の集団移住は、1899年に始まるペルーへの790名の渡航が最初である。その後、アメリカの移民割当法(排日移民法)の影響により、南米大陸の他国へも移民政策は拡大した。一世紀以上を経た現在では、ブラジルが日系移民最大の居住国である。ブラジルへの移民は1908年、笠戸丸がサントス港に到着したことを起源として考えられ、現在では日本からの移民とその子孫は150万人以上となり、移民四世、五世も存在し、世界最大の日系社会を築いている。対象とすべき文学作品数も多数であるため、中心的な研究地域となる。

南米への韓国系移民は、戦前に日本移民としてブラジルに渡航した者を例外として、1956年からとの調査がある。公式にはブラジルへの第一回韓国移民は1963年である。ブラジル・サンパウロ、アルゼンチン・ブエノスアイレス、パラグアイ・アスンシオンといった各都市には、日系移民と同じように、韓国系移民コミュニティが存在する。韓国外交部の公表数にあるように現在の移民数は、ブラジル・約5万人、アルゼンチン・約2万2千人と、決して少ないとは言えない。しかし移民研究はその端緒についたばかりである。韓国語文芸同人誌も複数存在するのであるが、韓国系移民文学研究は皆無と言ってよい。

(2) 日系移民研究については、半田知雄『移民の生活の歴史』(サンパウロ人文科学研究所、1970・6)や、香山六郎『香山六郎回想録』(サンパウロ人文科学研究所、1976・1)など、実際のブラジル日系移民たちによって書かれた資料が存在し、泉靖一の文化人類学研究を嚆矢に、前山隆の移民アイデンティティや移民世代間の理解に関する諸研究が先駆として存在する。その後もさまざまな資料とデータを駆使した社会学分野の日系移民研究は盛んである。文学研究においては、細川周平『日系ブラジル移民文学 日本語の長い旅』[歴史]、[評論](共にみすず書房、2012・12、2013・2)が刊行され、ブラジルにおける日系移民社会(コロニア)で発行された俳句誌・短歌誌・詩誌・文芸誌に加え、新聞や各団体から発行された機関誌に掲載された、様々な文芸ジャンルの作品を網羅的に取り上げ、詳細に分析している。これまでのブラジルを対象とした日系移民による文学研究の集大成と言えるだろう。他にも細川には『サンパの国に演歌は流れる』(中公新書、1995・9)、『シネマ屋、ブラジルに行く』(新潮選書、1999・2)といった民間芸能を中心とした研究があり、『コロニア芸能史』(コロニア芸能史編纂委員会、1986・5)以降のブラジル日系移民の芸能史を丹念に調

べることで、日系移民の心性を描き出している。他にも西成彦『ブラジル日本文学と『カボクロ』問題』(『いまを読みかえる「この時代」の終わり 文学史を読みかえる』インパクト出版会、2007・1)があり、ブラジルを舞台にした日本人作家が書いた作品を通時的に取り上げているほか、日系移民作家の作品も幾つか論じている。これらの諸研究が日系移民文学研究に先鞭をつけたことに間違いはない。

(3) 韓国系移民文学研究は、前述の通り手つかずと言ってよく、本研究が嚆矢となることは間違いなく。近年ブラジルでは日系・韓国系移民による芸術共同イベント「越境した2人の詩人(ルネ田口・黄雲軒)」が開催され、文学的文化的な相互影響が図られている。南米の現在の文学状況を視野に入れて研究を行うことで、日韓近現代文学の歴史を照射する試みにも成り得ると考えている。

2. 研究の目的

本研究は、これまでほとんど手つかずであった南米日系・韓国系移民による、日本語文学、韓国語文学の調査研究を目的とする。日系・韓国系の移民たちが、日本語・韓国語を用いて表象した文学作品を分析することで、南米各国における内実と変化を、文学作品として表現された作品から明らかにすることを狙いとする。具体的には、南米各国における日系移民、韓国系移民の文学作品を資料として収集し、各国の歴史や風土がそれらの文学作品にどのような影響を与え、また作品を創作する行為自体が移民たちにとってどのような意味を持つのかを分析し、意味づけを行っていく。南米における移民の歴史の変遷を背景とし、世代や地域、その他のコミュニティによる移民間の意識変化を考慮しながら、研究を進めていく。また、ブラジルを中心に、近年行われるようになった日系・韓国系移民間での芸術共同イベントなど、作品への文学的文化的相互影響が考えられる催しも研究の範疇に含むことで、現在的問題としてそれぞれの視点から読解していく。

3. 研究の方法

日系移民数が最大のブラジルをはじめ、アルゼンチン、ペルー、ウルグアイ、チリ、パラグアイなど、南米各国にある日系移民、韓国系移民コミュニティを中心に現地調査に赴き、南米大陸内の一国に限定することなく、日系・韓国系移民による日本語・韓国語文学作品の収集、整理、読解を行う。長期休暇を利用して現地へ赴き、調査を行う。移民研究を専門に行っている日本国内研究者、韓国国内研究者など、他にも現地研究機関に所属し

ている研究者とも話し合いを行い、調査研究に役立てていく。また、現地移民コミュニティに赴き、実作者との面会、また日本国内に住む移民経験者にもインタビューを行い、現場の意見も取り入れながら調査研究に取り組む。

4. 研究成果

(1) アルゼンチン国立ブエノスアイレス大学にて開催されたワークショップ「異文化間コミュニケーション」(2012・8・14開催)に参加し、当研究における成果の一部として、メンバー各人が発表を行った。題目は川村湊「もう一つの“ラテンアメリカ文学”」、守屋貴嗣「アルゼンチン日本語文学論『巴茶媽媽』について」、金煥基「南米のコリアン移民文学考察」である。このワークショップは、ブエノスアイレス大学社会学部 Gino Germani 研究所とブエノスアイレス大学アルゼンチン韓国研究所との共催によるものであり、アルゼンチン韓国研究協会、アルゼンチン商工会議所の後援によるものであった。他に日本側発表者としては、久野量一(法政大学社会学部教授)、高木佳奈(東京外国語大学博士前期課程)両氏がおり、当研究を推進していく上でも大変示唆に富んだ発表であった。アルゼンチン側発表者は、Carolina Mera(ブエノスアイレス大学社会学部教授、アルゼンチン韓国研究所所長)、Han YougSu(東国大学校文科大学教授、ブエノスアイレス大学客員教授)であった。司会・通訳は Cecilia Onaha(ラプラタ大学教授)、Alejandro Kuda(ラプラタ大学講師)であった。法政大学国際文化学部紀要『異文化』(第14号)にワークショップ発表者、発表題目を「ワークショップ報告集」として掲載している。また、上記ワークショップの詳細は、現地日本語新聞『らぶらた報知』2012年8月28日号において報道された。

(2) 増山朗『増山朗作品集 グワラニーの森の物語 一移民の書いた移民小説』(川村湊編、インパクト出版社、2013・8)を刊行した。本書は、アルゼンチン日系移民文学作品の初の単行本化であり、本研究代表者が、本年度までの研究成果の一つとして編集を行った。本研究分担者の守屋貴嗣も、あとがきとして「増山朗の世界」を掲載した。

(3) 『異文化』第13号(2012・4)には、論文だけでなく、小説・詩作品の翻訳、実作者インタビューも掲載している。守屋貴嗣「アルゼンチン日本語文学論『巴茶媽媽』について」、金煥基「在アルゼンチンコリアン移民文学の形成」の二論文のほか、金煥基訳、川村湊・守屋貴嗣補訳「アルゼンチン韓国系移民文学作品選」としてチョ・ミヒ、

イム・ドンガク、パク・ヨンヒ、パク・サンスの詩作品を、加えてメン・ハリンの短編小説を、実作として初めて日本語訳として掲載している。また『異文化』第14号(2013・4)には、川村湊「もうひとつの“ラテンアメリカ文学”」、守屋貴嗣「アルゼンチン日本語文学論『あるぜんちゃん日本文藝』について」の二論文のほか、「『巴茶媽媽』創刊同人・宮本俊樹氏インタビュー」を掲載した。

(4) 当研究において調査を行った、現地の各邦字新聞、『ニッケイ新聞』(ブラジル・サンパウロ)、『らぶらた報知』(アルゼンチン・ブエノスアイレス)、『ペルー新報』(ペルー・リマ)さらに韓国語新聞、『KORNET NEWS』(アルゼンチン・ブエノスアイレス)に、当研究での調査活動が掲載され、現地の各移民コミュニティに広く紹介された。そのため、移民の方々に広く周知され、資料収集や現地インタビューをスムーズに行うことが出来た。移民のオーラルヒストリー研究としても十分に価値を見出す事が出来ると考える。

(5) 韓国で刊行された、金煥基編『アルゼンチン韓国系移民作品集』1・2、『ブラジル韓国系移民作品集』1・2(ともにボゴサ書店、2013・8)は、本研究協力者である金煥基が本年度までの研究成果をまとめ、これまでに現地文芸同人誌に発表された、韓国語による文学作品を幅広く収録したものであり、今後の韓国系移民文学研究において必読文献となるものである。韓国系移民の歴史と、発行された韓国語文芸誌を綿密に調査し、その意義を論文化したことで、休刊中だったブラジル韓国語文芸同人誌『熱帯文化』が昨年再刊された。サンパウロの韓国街(衣料問屋街)ボン・ヘチーロに代表されるような職業的コミュニティだけではなく、文芸同人のようなソフトウェアとしてのコミュニティも、移民研究を行う上での重要な研究要素となることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

川村湊「もうひとつの“ラテンアメリカ文学”」、『異文化』14号、2013、pp7~13、査読有

守屋貴嗣「アルゼンチン日本語文学論『あるぜんちゃん日本文藝』について」、『異文化』14号、2013、pp59~90、査読有

川村湊「もうひとつの“ラテンアメリカ文学”」、『図書』761号、岩波書店、2012、pp8~11、査読有

守屋貴嗣「アルゼンチン日本語文学論

『巴茶媽媽』について』、『異文化』13号、2012、pp221~243、査読有

金煥基「在アルゼンチンコリアン移民文学の形成」、『異文化』13号2012、pp67~92、査読有

〔学会発表〕(計3件)

ワークショップ「異文化間コミュニケーション」於・アルゼンチン国立ブエノスアイレス大学、2012・8・14

川村湊「もう一つの“ラテンアメリカ文学”」

守屋貴嗣「アルゼンチン日本語文学論

『巴茶媽媽』について」

金煥基「南米のコリアン移民文学考察」

〔図書〕(計4件)

川村湊編、増山朗『増山朗作品集 グワラニの森の物語 ー移民の書いた移民小説』、インパクト出版社、2013、全405頁

川村湊「ラテンアメリカ日本語文学論」、『国際文化研究への道』熊田泰章編、彩流社、2013、pp211~233

金煥基編『アルゼンチン、コリアン文学選集』、韓国ポゴ社、2013、全850頁

金煥基編『ブラジル、コリアン文学選集』、韓国ポゴ社、2013、全850頁

〔その他〕

翻訳

金煥基訳、川村湊・守屋貴嗣補訳「アルゼンチン韓国系移民文学作品選」、『異文化』13号、2012、pp295~320

インタビュー

川村湊、守屋貴嗣「『巴茶媽媽』創刊同人・宮本俊樹氏インタビュー」、『異文化』14号、2013、pp15~31

エッセイ

佐藤洋二郎「ブラジルの美空ひばりコロニア文学の哀しみ」、『毎日新聞』夕刊、2011・9・1、文化欄、4面

小説

佐藤洋二郎「円月橋」、『表現者』40、ジヨルダン、2012・1

6. 研究組織

(1)研究代表者

川村 正典 (KAWAMURA Masanori)

法政大学・国際文化学部・教授

研究者番号：70224855

(2)研究分担者

守屋 貴嗣 (MORIYA Takashi)

法政大学・国際文化学部・講師

研究者番号：60597813

(3)連携研究者

佐藤洋二郎 (SATO Yojiro)

日本大学・芸術学部・教授

研究者番号：50349982